

岡山大学工学部 同窓会報

No.37
2025.8



Contents

工学部長挨拶	2	令和7年春の叙勲	
代表幹事挨拶	3	瑞宝中綬章を受章して 則次俊郎先生	23
退職にあたって	4	環境理工学部同窓会との統合	24
各系の最近の話題	8	工学部同窓会会則の改正	24
工学部学科同窓会活動報告	11	寄付者一覧	25
職場紹介	15	会計報告	26
各支部報告	18	同窓会事務局より	27
エッセイ	20	編集後記	28

最初の卒業生を送り出して



工学部長

高橋
規一

2025年4月より工学部長を務めておりますが、ほとんどの方が私のことをご存じないと思いますので、まずは自己紹介をさせていただきます。熊本の山間の小さな町で生まれ育ち、大学入学とともに福岡に移って約四半世紀を過ごした後、2013年4月に山崎進教授の後任として工学部に着任しました。専門は情報数理工学で、最近では分散アルゴリズムや機械学習の応用に関する研究を行っています。元々は理論研究が中心で産学連携の経験はほとんどありませんでしたが、本学に着任して以降、共同研究や「おかやま AI・セキュアIoT 共創コンソーシアム」会長としての活動など、地元企業や自治体の方々と一緒に仕事をする機会が増えました。工学部同窓生の方々にもお世話になっています。2023年4月から2025年3月までは難波学部長の下で副学部長を務め、情報工学先進コースの設置に携わりました。現在は43名の2年生と45名の1年生がこのコースで学んでいます。

前置きが長くなりましたが、工学部の近況をご報告いたします。2021年4月に工学部と環境理工学部の再編統合によって新たな工学部が誕生してから4年が経ち、この3月に最初の卒業生を送り出しました。この4年間、Society 5.0の実現を通してSDGsの達成に貢献するという目標を掲げ、「幅広い視野をもち、社会課題を発見・把握し、主体的に解決できる創造的な工学系人材」を養成する教育を進めてきましたが、卒業生の成長を間近で見て、この取り組みは確実に実を結びつつあると感じています。その一方で、文部科学省のアフターケア期間が終了しましたので、急速に変化する社会情勢や技術革新に対応すべく、工学部の教育内容を改善していくことも必要です。

早速、今年度は、新学習指導要領の下で学んできた学生が入学してきました。それらの学生は、高校の「総合的な探究の時間」において、自ら課題を見だし探究する活動を経験しています。本学では、このような学生に対応すべく、数年前から「Target2025」と称し、2025年度以降の学士教育課程の検討を行ってきました。柱となる科目は「知の探研」です。学部横断的なグループ編成により、多様な学問的志向をもつ学生同士で協力しながら、課題を見だし、課題解決に挑む姿勢と能力を身につけることを目指します。工学部の教員も担当します。初めての試みで難しい点もありますが、高い教育効果が得られるよう工学部として協力していきます。新学習指導要領では、高校に共通必修科目「情報I」も導入されました。それに伴い、大学入学共通テストにも教科「情報I」が加わり、工学部の新入生の多くが受験しました。工学部のプログラミング系の科目では、受講者の予備知識がこれまでと違いますので、学生の理解度や反応を観察し、教育内容の再検証する必要があるようです。

新学習指導要領と工学部の教育に共通するのは、社会課題を発見・解決する能力の養成です。しかし、これを大学内だけで行うには限界があります。工学部では、地元企業や自治体に加え、工学部同窓会のご協力を仰ぎながら、教育内容を改善していきたいと考えています。工学部同窓生の皆さまには、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

工学部同窓会からのご挨拶

2024年から今年にかけ、カナダ国立公園の森林火災、米国ロサンゼルスの大規模な山火事が発生し、広い面積の森林や多くの住宅が焼失しました。また日本でも、今年3月に岩手県の大船渡市でも山林火災が発生し、焼失面積は2900ヘクタール、171棟の住宅が焼失しました。このような大火災は、気候変動による地球温暖化も一因しているといわれています。しかしながら、米国は地球温暖化対策の枠組みであるパリ協定から離脱を宣言し、今後の自然環境維持、そして世界的な温暖化防止の推進に懸念がもたれます。また、トランプ大統領の関税政策により、関税戦争が起きようとしており、日本でもGDPの押し下げによる景気の後退が懸念されています。この中で温暖化防止への対策には、工学系技術者の技術革新への活躍が期待されます。

工学部同窓会は、2024年11月2日(土)に開催された岡山大学ホームカミング日の当日、同窓会報告会と懇親会を開催しました。2024年は岡山大学ホームカミング日が大学祭開催日(初日)に開催され、多くの学生と卒業生がキャンパスに集っていました。報告会には工学部の先生方と同窓生を含めて35名が出席し、同窓会活動、支部活動報告、最後に難波工学部長挨拶がありました。懇親会には那須学長に出席頂き、ご挨拶と岡山大学の現状等について話をして頂きました。出席者は36名で、和やかな雰囲気の中で会員同士の親睦が行われました。これらについては、同窓会ホームページに掲載していますのでご覧ください。2025年も同様に、大学祭、ホームカミング日が開催される11月1日(土)に予定していますので、同窓生の皆様の多くの参加をお待ちしています。

工学部同窓会は旧環境理工学部同窓会との統合を進めています。これについては本会報の中で報告していますので、ご確認下さい。また工学部同窓会では、支部活動も行っており、卒業生相互の親睦と情報交換を行うことを目指しています。大学卒業後の活動および親睦の場として多くの同窓生が集い、ますます活躍の場を広げて行っていただきたいと願っています。同時に全学同窓会とも連携を取り、他学部の同窓生とも連携の輪を紡ぎ、そして広げてほしいと思います。

最後になりましたが、在学生および卒業生の皆様のご健勝とご活躍をお祈りします。そして、引き続き工学部同窓会への支援と活動への協力を併せてお願い申し上げます。



工学部同窓会代表幹事

船曳 繁之

(1976年電気工学科卒)



那須学長挨拶



難波工学部長挨拶



懇親会会場の様子

退職にあたって

退職にあたって

機械システム系機械工学コース

藤井 正浩



このたび、退職にあたり、同窓会会報への寄稿という貴重な機会を賜り、これまでの歩みを振り返る機会を得ましたこと、心より感謝申し上げます。普段は目の前の業務に追われ、あらためて自らの歩みを省みることはなかなかできないものですが、こうして一つの節目に際し、これまでの年月を振り返ることができるのは、まことにありがたいことであると感じております。

私は、大学院修了後、まずは民間企業に就職し、約3年間、実務経験を積みました。社会人としての基本を学び、多くの方々にご指導いただいたこの時期は、後の大学教員としての活動にも大きな糧となったと実感しています。その後、1988年1月に、吉田 彰教授（現名誉教授）の主宰する工学部機械工学科機械設計学研究室の助手として採用いただき、以来、37年間余りにわたり、岡山大学に籍を置かせていただきました。助手、講師、助教授、そして2007年からは教授として機械設計学研究室を運営する立場となり、多くの学生諸君、同僚教職員の皆さんとともに、教育・研究活動に取り組んでまいりました。振り返れば、着任当時の大学は、現在とはずいぶん様相が異なっておりました。助手として勤務しながら博士の学位取得を目指すこともでき、研究と学位取得を両立させる環境が整っていたと思います。また、桜の季節には、研究室の学生たちと連れ立って半田山へ花見に出かけることなどもできました。研究の合間に自然の中で語り合い、交流を深める、そんな「ゆとり」ある大学生活が許されていたことを懐かしく思い出します。今にして思えば、当時は、ある意味で大らかな、自由な雰囲気もあった時代といえるでしょう。

しかし時代が進み、社会全体でコンプライアンス意識が高まるとともに、大学においても教員と学生の関わり方には一層の慎重さが求められるようになりました。教

員に対する業務負担も年々増大し、教育・研究以外の業務の比重もおおくなりました。かつては自由な研究時間を確保できた時代が、徐々に失われていく様子を、身をもって感じてまいりました。

さらに、2004年の国立大学法人化は、大学の運営や教員の働き方に大きな転換をもたらしました。法人化によって、大学には自主的な経営が求められる一方で、成果主義、競争原理が強く導入されることとなり、教員一人ひとりに対する責任とプレッシャーは、かつてないほど重くなりました。教育・研究に専念する余裕が削がれ、閉塞感を覚えることも少なくなかったように思います。この現状は、大学が本来果たすべき教育・研究機関としての役割を維持する上で、大きな課題ではありますが、その解決策を見出せなかったことには大いに責任を感じています。

加えて、2020年からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は、大学教育においても大きな影響をもたらしました。対面授業が困難となり、オンライン授業が主流となった結果、学生たちの対人コミュニケーション能力や集団活動への積極性にも変化が見られるようになりました。その影響は2025年現在でも続いており、大学に滞在する時間がコロナ禍前と比べて著しく減少し、かつてのように研究室内で学生同士が切磋琢磨する光景があまり見られなくなったのは残念でなりません。

さて、私自身の専門は、歯車を中心とした機械要素のトライボロジーに関する研究でした。この分野は、ものづくり産業を支える基盤技術でありながら、近年は厳しい状況に直面しています。日本機械学会の会誌（2024年1月号～12月号）において、「絶滅危惧科目－基盤技術維持のための再考－」という特集が組まれ、油空圧、流体機械、蒸気工学、溶接工学、塑性加工などと並び、ねじや歯車といった機械要素も絶滅危惧（？）として取り上げられました。私自身、専門分野がこうして危機的状況にあることをあらためて痛感した次第です。しかし一方で、依然として企業現場からはその重要性が強く認識されており、日本機械学会の歯車関連の研究分科会は

60年以上もの長きにわたり活動を続けています。今後も、日本がものづくり立国として国際社会において存在感を発揮し続けるためには、こうした基盤的な技術分野に携る人材を大切に育てていくことが不可欠です。

本稿を書いている今、世界経済は先行き不透明な状況にあります。トランプ関税の動向も不確実であり、経済の急激な悪化も懸念されています。しかし、こうした厳しい局面にあっても、時代に即した新たな価値創造を可能とする日本のものづくりの底力を信じて、これからも微力ながら、後進の育成と技術の継承に尽力してまいりたいと考えております。

岡山大学を退職した現在は、倉敷（玉島）にある中国職業能力開発大学校（中国能開大）にて校長を務めております。この学校では、生産現場の第一線で活躍できるリーダーの育成を目指しており、とりわけ地域の産業を支える中核的人材の輩出に力を注いでいます。新たな環境に身を置きつつも、これまでの経験を活かし、次代を担う若者たちに希望を託しながら、謙虚な気持ちで努めてまいる所存です。

脈絡もなく思うままに綴った拙文を、最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

末筆ながら、同窓会の皆様のますますのご発展とご健勝を、心よりお祈り申し上げます。

岡山大学在籍時の御礼

機械システム系
西 竜志



2020年4月に岡山大学自然科学研究科教授として着任し、2025年4月から立命館大学情報理工学部教授に異動しました。2020年4月から2025年3月までの5年間という短い間となりましたが、在職期間中は工学部の皆様方にいろいろとお世話になり、誠にありがとうございました。岡山大学工学部助手として在任していた2001年4月から2006年3月を含めると、10年間お世話になったこととなります。皆様方に心よりの感謝と御礼を申し上げます。

私は2020年4月に自然科学研究科産業創成工学専攻機械システム系学科システム工学コースに着任し、高度システム安全研究室を引継ぎました。着任当時は佐藤治夫准教授と私の2名で研究室を運営し、2021年度から知的システム計画学研究室を立ち上げました。研究内容はロボットやその周辺システムの最適化により、システムの安全性を保持しつつ、高度なシステムやサービスを実現するためのロボットシステムやシステム最適化技法に関する研究でした。工学部では着任して1年後である2021年度に新工学部が発足し、新工学部1年生を迎える時期でしたが、まだ右も左もわからない状況で2021年度機械システム系学科長、2021年度～2022年度ロボティクス知能システムコース長を仰せつかりました。コースや学科運営ではコースや系の先生方ご迷惑をおかけすることも多かったと存じます。

研究室では2021年度からは劉小昂助教、2022年度から2023年度までMd Moktadir Alam特任助教が赴任し、2020年度から2024年度までNEDO革新的ロボット研究開発等基盤構築事業の補助を得て、技術研究組合産業用ロボット次世代基礎技術研究機構（ROBOCIP）との共同研究を実施する機会を得ることができました。また、工学部では2024年度から学部教務委員として参加させ

ていただき、機械システム系の2025年度からの新カリキュラム検討などに携わることができたこと大変嬉しく思っております。岡山大学で経験させていただいたこと、勉強させていただいたことを今後に生かしていければと考えております。岡山大学工学部の皆様方の今後のご発展とさらなるご活躍を祈念しております。

支えてくれた 全ての方々に感謝！

環境・社会基盤系

諸泉 利嗣



このたび、2025年3月末をもちまして岡山大学工学部を定年退職いたしました。1999年4月に環境理工学部環境管理工学科に着任して以来、環境理工学部22年、工学部4年の計26年間にわたり岡山大学で教育・研究活動に携わってまいりました。この節目を迎えるにあたり、これまで私を支えてくださった全ての方々に、心より感謝申し上げます。

岡山大学着任前は、青森県十和田市にある北里大学獣医畜産学部に勤務していました。当地の冬は厳しく、寒さの苦手な私にとって温暖な「晴れの国」にある岡山大学への異動が決まった時は、とても嬉しく思ったことが昨日のことにように思い出されます。

環境理工学部では、灌漑排水学をベースに教育や研究に従事しておりました。教育面では、「流体力学入門」、「水資源利用学」等の専門科目から「気象と水象」、「数理・データサイエンスの基礎」等の一般養育科目まで幅広く担当させていただきました。研究面では、地水圏における水・物質・エネルギーの移動に関する研究やTDRを用いた非水溶性物質の汚染度推定手法に関する研究などを進めるとともに、CREST（2002～2008年）、科学技術振興調整費（2004～2006年度）など大型研究プロジェクトに参加する機会にも恵まれました。これもひとえに、総合大学である岡山大学に在籍していたから

成し得たことと感謝しております。

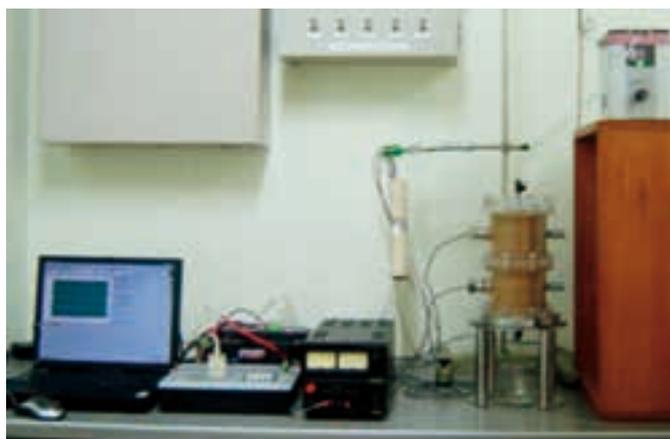
また、環境理工学部時代には木村邦生学部長の下で2期4年にわたり、副学部長として貴重な経験をさせていただきました。学部長室会議をはじめ学部内の各種委員会への出席、学部キャリアサポート室長としてのキャリア教育と就職支援、大学執行部との意見交換、6大学工学部長会議や新構想学部教育・研究フォーラムへの当番校としての参加、学部内の様々なトラブルへの対処など、まわりの方々のサポートを受けながら何とか乗り切ることができました。改めて、この場をお借りして御礼申し上げます。

2021年4月にスタートした新生工学部では、工和会等の場を通して様々な分野の先生方や職員の方々との出会い、わずか4年間という短い間ではありましたが、充実した楽しい時間を過ごすことができました。

振り返れば、農学部卒業に始まり、獣医畜産学部、環境理工学部、そして最後に工学部。気がつけば“学部の旅人”のようなキャリアでしたが、その分、幅広い分野の考え方や人々に触れることができました。どの場面でも、多くの人に支えられ、学ばせていただいたことに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

4月からは岡山大学の非常勤講師としていくつかの科目を受け持つことになっています。キャンパス等でお目にかかることもあるかと思しますので、引き続きよろしく願いいたします。

皆様と同様に、この新たな学部の未来に大きな期待を寄せています。岡山大学工学部のこれからのますますの



非水溶性物質の汚染度推定実験

ご発展と、在学生・卒業生の皆さまのご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。本当にありがとうございますございました！

みなさまへの感謝と期待

情報・数理・データサイエンス系

深野 秀樹



16年7か月前に企業から大学へ移ってまいり、教職員、卒業生の皆様には、多くのご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。企業では、研究所において実用化を出口に見据えて研究開発を行っていました。このため学会発表や論文発表の前には、必ず、特許出願を求められました。企業における研究開発費は、売上の一部から投入されるため研究開発費以上の売上げにつながる内容が常に求められるわけです。実用化までの年月は技術内容で異なりますが、平均して十年で一つ位の実用化に関係してきました。この時、アイデアや原理確認から実用化までの間の開発フォローの体制が企業にはあり、実用化が可能になります。他方、大学では実用化までの開発フォロー体制が、産学連携という形で存在するものの、きわめて貧弱で実用化に至ることがなかなか難しいと感じました。

一方、大学においては、毎年フレッシュな学生たちが研究室に配属されるため、さまざまなアイデアから原理確認まで多くのことを高い能力の学生の協力に支えられ、チャレンジと原理検証を行うことができ、学会発表や論文発表ができました。この経験から、大学は新しいアイデアを生み出し、確認する場として優れた環境にあり、それを支える優れた学生がたくさんいると共に、彼らにとっても先端の研究開発を肌で感じ取ることができると感じています。研究室に配属されてきた学生は、研究を通じてみるみる実力が向上していくことを日々のゼミにおける進捗発表によって感じと

ることができました。

最近、気になっている言葉があります。タイパ（タイムパフォーマンス）です。昔から、コスパ（コストパフォーマンス）の言葉はありました。これは、出来上がった製品やサービスが、その値段に対してどれだけ高い価値を示すかというものであり、その過程にある研究開発の部分の努力が、結果としてコスパにつながります。良い製品を生み出した喜びが研究開発のベースにあります。一方、タイパは、時間単位でパフォーマンスを問うため、経験の浅い若い人たちの研究開発においては、マイナスの言葉になりかねません。研究開発では、失敗はつきものでありますが、失敗は単純にはパフォーマンスゼロであり、それに費やした時間と労力は、タイパゼロということになります。失敗を無駄と考えてしまう状況では、良い研究はできません。なぜ失敗したのか、どうしたら成功につながるのか、そのようなことを自分の頭で考える時間が研究開発においては重要であり、その問題や課題を解決した時にタイパがいきなり跳ね上がるわけです。しかしながら、研究室の進捗報告で失敗の報告は、聞き出さないと出てくることは少なく、また、多くの場合、失敗の状況や記録が保存されていません。これでは、なぜ、うまくいかなかったのかを再考して問題を解決することはできません。多くの失敗の後に課題を解決して得られる達成感こそが研究開発の醍醐味であるわけですが、これを感じ取るには多くの経験が必要です。その経験を得る前に、タイパという長期的視点になじまない言葉で本当の喜びを感じるできない状況になり、解決策を他者やネットに求めがちに思えます。課題や問題に対して、状況をきちんと把握し、自分の頭で考えて解決していくことが大切で、これは研究だけでなく、あらゆる仕事に共通するものと思います。様々なことにスピードが求められるご時世ですが、自分の頭で考えて行動していくことの大切さを、研究を通じて卒業生には伝えていったつもりです。時代は変わっても、本質は変わらないと思います。卒業生のみなさまには、失敗を糧にして日本の工業界を牽引されることを期待しております。

機械システム系の近況報告

機械システム系・系長 河原 伸幸



2021年度に工学部は統合再編し、2024年度末に新工学部の一期生が卒業いたしました。同時に、2023年度に新設された環境生命自然科学研究科機械システム都市創生科学学位プログラムの博士前期課程学生が、修了いたしました。再編などに伴い、新たなカリキュラムにおいて育った学生たちの将来が、楽しみであります。機械システム系では、多くの産業技術分野で活躍できる技術者を育成するために、機械システム工学の基礎学力や応用能力を養うだけでなく、課題探求能力、デザイン能力およびコミュニケーション能力を高める教育プログラムを実施しています。オープンキャンパスでも毎年多くの高校生が参加してくれております。機械システム系を選択する高校生も多く、ますます教育・研究活動に精進しております。

研究室の活動におきましては、2023年度に新設された工学部実験研究棟での研究活動が活発になっています。中庭があることで、ホームカミングデイ等でも活用しております。ホームカミングデイは、来学方式で行っておりますので、多くの同窓生にご参加いただければと思っております。また、両コー

スともに多くの研究成果が学会等で受賞しています。これらの受賞履歴は、機械システム系Webサイト (<https://www.engr.okayama-u.ac.jp/ms/>) で閲覧できますので、一度訪問いただければと思っております。

最後に機械システム系の教員異動について紹介します。令和7年3月31日付けで、機械工学コースの藤井正浩教授が中国職業能力開発大学の校長就任により退職され、岡本康寛准教授が広島大学に教授として転出されました。また、同日付けで、ロボティクス・知能システムコースの西竜志教授が立命館大学に、中村幸紀講師が岡山県立大学に教授として転出されました。新たなメンバーとして、令和6年10月1日付けで、金子和暉助教が機械工学コースに、出原俊介助教がロボティクス・知能システムコースに着任されました。令和7年4月1日付けで、西村悠樹教授が、ロボティクス・知能システムコースに着任されました。また同日付けで、横山寛助教が機械工学コースに、川本卓樹助教がロボティクス・知能システムコースに着任されました。



最近の工学部1号館 (2025年4月12日撮影)



2024年度オープンキャンパス

環境・社会基盤系より

環境・社会基盤系・系長 永禮 英明



Society 5.0の実現を通してSDGsの達成に貢献するために「幅広い視野をもち、社会課題を発見・把握し、主体的に解決できる創造的な工学系人材」の輩出することを目的として新工学部が設立されて4年、今年3月に第1期生が卒業していきまし

た。環境・社会基盤系からは59名が都市環境創成コース、27名が環境マネジメントコースで所定の単位を修得し、

合計86名が学位を授与されました。今回卒業した学生が、これから大きく羽ばたき、新たな時代を切り開いていってくれることを心から期待しています。

令和6年度も大きな災害・事故が続きました。昨年のお正月に大きな地震で被害を受けた能登半島で9月には豪雨被害が、今年3月には東日本大震災の被災地である大船渡で山火事が発生し、同じ地域で繰り返し被害が生じています。また、1月には埼玉県で下水道管破損に起因する道路陥没事故が発生しました。また、将来のことになりますが、今年3月に政府の作業部会が発表した南

海トラフ地震での新しい被害想定では、死者は29.8万人、経済被害は270兆円（いずれも最大の場合）が生じると報告されています。

私は昨年度、都市環境創成コースの就職担当となり、多くの企業・地方自治体等のリクレーターの方とお話しすることができました。皆さんが共通して仰っていたことが「十分な数の人材を確保できない」ということでした。公共工事の司令塔である自治体職員、実際に物作りを担う建設現場の技術者の数が今後急激に減少していく、その結果として人々の生活・産業活動を支える社会基盤を維持しきれなくなることを大変危惧しています。人口が減少し社会が脆弱になっていきますが、事故・災害が減ることはありません。人々の生存基盤である都市・農村に関する教育・研究を担っている環境・社会基盤系に課せられた使命は大きいと感じています。

最後に、教員の異動に関してご報告します。令和6年10月に高麗秀昭教授と須藤竜大朗特任助教が都市環境創成コースに、12月に福元豊准教授が環境マネジメントコースに着任されました。諸泉利嗣先生が令和6年度末をもって定年退職されました。福本晃治准教授が新年度から近畿大学建築学部教授として転出されました。



情報・電気・数理データサイエンス系の近況報告

情報・電気・数理データサイエンス系・系長
岡部 孝弘

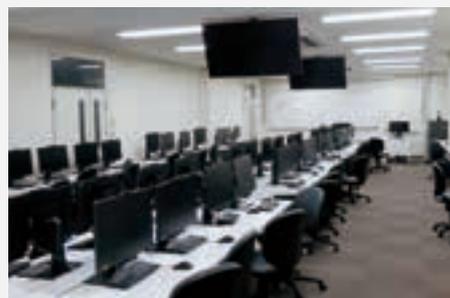


同窓生ならびに旧教職員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。系を代表致しまして、情報・電気・数理データサイエンス系の近況をご報告申し上げます。

今年度は、新工学部がスタートして5年目となります。昨年度末には、情報工学（IT）コース65名、ネットワーク工学（NE）コース52名、エネルギー・エレクトロニクス（EE）コース32名、数理データサイエンス（MDS）コース21名の計170名の一期生が卒業致しました。卒業生の多くは、本学大学院の環境生命自然科学研究科やヘルスシステム統合科学研究科に進学しております。



工学部4号館



プログラミング演習室2

昨年からの教員の異動は次のとおりです。2025年4月に、高橋和教授（EE）、魏博講師（IT）、Htoo Htoo Sandi Kya 講師（NE）、遠藤良峻助教（IT）、大石慶一朗助教（IT）、吉田道隆助教（IT）が着任されました。また、小寺雄太先生（NE）が准教授に昇任されました。一方、2025年3月に阿部匡伸教授（IT）と深野秀樹教授（EE）が定年を迎えられました。なお、阿部教授は2025年4月以降も本部理事を継続されております。また、2024年7月にYucel Zeynep准教授（IT）が、2025年2月に梅谷和弘准教授（EE）が転出されました。

2024年4月に、情報・電気・数理データサイエンス系の属する工学部工学科に、情報工学先進コース（定員40名）が新設されました。計算機科学講座の教職員が一体となって、情報工学先進コースならびに情報・電気・数理データサイエンス系情報工学コースの運営にあっておりますので、今回は情報工学先進コースについて簡単に紹介させていただきます。

情報工学先進コースの最大の特徴は、大学院進学を前提とした6年一貫教育プログラムにあります。具体的には、情報工学分野の先端研究の概要を学ぶ「情報工学入門」（1年次）、実際に研究室の活動に参加して課題発見及び解決のための思考法を学ぶ「情報工学探究」（2年次）、実践力やチームワーク力を育む「実践プログラミング」（2～3年次）などの特色のある授業や、

大学院生との協働の機会が設けられております。また、学部の成績が一定基準を満たしていれば、推薦入試を利用した大学院への進学が可能です。昨年度は、情報工学先進コースの学生の受け入れのために、講義室や演習室

の整備も進めて参りました。

情報・電気・数理データサイエンス系としての5年目が始まりました。皆様には引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

化学・生命系の近況報告

化学・生命系・系長 二見淳一郎



2025年度の系長を拝命しました二見淳一郎です。当系は、1960年の工学部設立と同時に設置された工業化学科を原点とし、これまでに65年の歴史を積み重ねてきました。その中間点付近の1990年に生体機能応用工学科が設立され、私はその第1期生として

入学しました。ご縁があって母校の教員となり、大学が変革期を迎える中で組織運営に携わる立場となり、日々大きな使命を感じております。現在、当系は応用化学コースと生命工学コースの2コースで形成され、先端研究に取り組む27の研究室を約60名の教員で運営し、毎年約160名の学生が入学してきます。そのうち約3分の1が女子学生であり、出身地は岡山県と兵庫県が多く、この2県で全体のおよそ半数を占めています。当系が、地域の高校生にとって憧れの存在であり続けるとともに、本学を踏み台として社会に大きく羽ばたいていく人材を輩出し続ける「学びの場」として、学生とともに成長し続ける組織でありたいと考えております。

昨年度からの教員の異動は次の通りです。環境生命自然科学学域には2024年8月に木村尚敬助教が、2025年1月に中原望助教が着任されました。ヘルスシステム統合科学学域では2025年1月に佐藤あやの准教授が教授に

昇任されました。さらに4月には飯田裕也助教、新田菜摘助教が環境生命自然科学学域に着任されました。一方、2025年3月に環境生命自然科学学域の前田千尋助教が東京科学大学に、三野泰志助教が北九州市立大学に、近藤真矢助教が名古屋大学にそれぞれ異動されました。

長年、岡山大学に通い続けて最近ふと感じることは、キャンパスが美しくなっていることです(写真1)。新緑や紅葉が美しい植栽も魅力ですが、整備された自転車置き場に、整然と駐輪をして講義に参加していく学生さん達の姿は、我々が学生時代の頃の状況より明らかに民度の向上を感じます。大学周辺の古き良き老舗食堂の多くが閉店してしまったことは残念ですが、学内の大学生協に対する食の満足度の高さ故とも言えます。2桁人数の学科から160名の系になってからは、学生さん同士もなかなか顔見知りにならないまま学年が進行し、4年生で研究室に配属されてから友好を深めるケースも多くみられるようです。そんな大人数ですから、皆様のご寄付もあって整備された共有共創コモンズ(OUX: オークス)は、必修科目の定期試験会場としても大変重宝させていただいています(写真2)。JR岡山駅西口が2010年に改修され、岡山県総合グラウンドにホームグラウンドを構えるフェジャーノ岡山が遂にJ1に昇格し、岡山大学までの導線が活気づいています。同窓生の皆様にも機会があればぜひお立ち寄りいただければと思います。



(写真1) 共有共創コモンズ(手前)、工学部6号館(奥)、環境理工棟(右)



(写真2) 共有共創コモンズでの期末試験の風景

機械システム系 同窓会

機械システム系

役員

- ・学外幹事 尾崎 公一 (S63卒), 松岡 大樹(H22卒)
- ・学内幹事 高橋 智 (H元卒, 機械工学コース担当)
- 山口 大介 (H21卒, ロボティクス・知能システムコース担当)

活動概要

1. 両コース共同の新入生に対する入会案内
2. 現役学生への支援
 機械工学コース: 卒業生と現役生の交流促進, オンライン会議用備品購入 等
 ロボティクス・知能システムコース: 学習環境, 就活環境向上のための寄贈

卒業生と現役生の交流促進, オンライン会議用備品購入 (機械工学コース)

- ・「機械系エンジニアの歩き方」開催
- ・機械系卒業生による在学生への助言, 企業紹介, 交流促進
 エンジニアの歩き方参加企業数

年度	企業数
2019年度	108社
2021年度	80社(オンライン)
2022年度	64社
2023年度	80社

2020年度は中止



- ・「ホームカミングデー」によるコース企画
- ・卒業生, 在学生の交流, 最新の研究課題, 設備の紹介



卒業生, 学部生, 院生, 教職員のべ116名参加(2024年度)

- ・オンライン会議用備品購入
- ・Web会議用カメラ購入(2021年度), HDMI分配器購入(2022年度)

学習環境, 就活環境向上のための寄贈 (ロボティクス・知能システムコース)



液晶プロジェクター, スクリーン 掲示板

現役学生のための寄贈活動

- 超短焦点型 液晶プロジェクターとスクリーンを2式寄贈(2013年)
- 就職情報掲示のための掲示板(2015, 2018年)
- 無線アクセスポイント(AP)の設置(2019年)

環境・社会基盤系
都市環境創成コース同窓会

環会

工学部土木工学科
 環境理工学部環境デザイン工学科
 工学部環境・社会基盤系 都市環境創成コース } 系列の同窓会

- 役員
- ・会長 河田孝志(土木1期)
 - ・副会長 三村富士男(土木2期), 竹下祐二(土木4期)
 - ・監事 羽村紀幸(土木9期), 大田 昇(土木17期),

主な活動

- ・卒業写真および入学写真の撮影と配布【3月, 4月】
- ・ホームカミングデー「卒業生を囲む会」の開催【11月】
- ・環会名簿(隔年)、会報の発行【12月】
- ・現役学生への支援(現場見学会、就職説明会、学生会員活動助成金助成等)【随時】

1. 現役学生への支援

現場見学会での案内や卒業制作展の事業費の補助を行った。



現場見学会

卒業設計展「ハレ」

2. 卒業写真および入学写真の撮影と配布



工学部学科同窓会活動報告

<p style="text-align: center;">環境・社会基盤系 環境マネジメントコース同窓会</p>	<p style="text-align: center;">情報・電気・数理データサイエンス系 情報同窓会</p>												
<p style="text-align: center;">拓水会(環境マネジメントコース)</p> <hr/> <p>役員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長 小橋 浩二 (S54) ・副会長 大賀 則男 (S63), 原 聡 (H12) <p>「拓水会」は 旧岡山農業専門学校(昭和24年卒)から続く、岡山大学 環境理工学部 環境管理工学科、工学部 環境・社会基盤系 環境マネジメントコース、並びに農学部生産システム工学分野の同窓会です。</p>	<p style="text-align: right;">情報工学コース, 情報工学先進コース同窓会活動報告 右田剛史</p> <hr/> <p>役員</p> <ul style="list-style-type: none"> 幹事 (学外) 池本文典 (内山工業 (株), H3卒) 幹事 (学内) 右田剛史 <p>活動概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報工学コース, 情報工学先進コース (情報系学科) ホームカミングデイの活動報告 2. 情報工学コース, 情報工学先進コース同窓会 (情報工学会) の活動 												
<p>1. 学外研修・ホームカミングデイの後援</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・在学生在授業内で行う「学外研修」の後援、補助を行っています。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>2024.5.8 自然保護センター</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>2024.5.9 高梁川合同堰</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学科と「ホームカミングデイ」を共催しています。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	<p style="text-align: center;">1. 情報工学コース, 情報工学先進コース (情報系学科) ホームカミングデイの活動報告</p> <hr/> <p>(A) OB・OG向け研究室公開: 教員と情報系学科OB・OGとの交流の場 (B) 在学生、OB・OG向け研究紹介: ポスター形式で研究室の活動を紹介 (C) 最近の学科・コースの近況、OB・OG講演:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報工学コース長・情報工学先進コース長による近況報告 (2) 情報工学科OBによる講演 (※旅費・謝金を同窓会で支援) <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: right;">(写真は2023年度のイベント)</p>												
<p>2. 「拓水会誌」の発行</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・年に一度、同窓会誌「拓水会誌」の発行を行っています。 <p>拓水会誌第59号2023</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>☆ 巻頭言</td> <td>☆ 紹介</td> <td>☆ 事業報告</td> </tr> <tr> <td>☆ 報告</td> <td>- インターンシップ報告</td> <td>☆ 研究室だより</td> </tr> <tr> <td>☆ 寄稿</td> <td>- 美崎町境神社</td> <td>☆ 編集後記</td> </tr> <tr> <td>☆ 10年十色</td> <td>☆ 近況</td> <td></td> </tr> </table> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p><その他の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> - 総会・新年会 - 新入生記念品贈呈 - 卒業生記念品贈呈 - 教育貢献部会 評価委員会 </div> </div> 	☆ 巻頭言	☆ 紹介	☆ 事業報告	☆ 報告	- インターンシップ報告	☆ 研究室だより	☆ 寄稿	- 美崎町境神社	☆ 編集後記	☆ 10年十色	☆ 近況		<p style="text-align: center;">2. 情報工学コース, 情報工学先進コース 同窓会 (情報工学会) の活動</p> <hr/> <p>例年、情報工学コース3年生の学外研修として行われる学外施設の見学会を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大型放射光施設「SPring-8/SCALA」(理化学研究所/高輝度光科学研究センター@兵庫) 見学 (2024年9月25日) (※本年度の旅費は工学部で支援) ■ (2023年度は、スーパーコンピュータ「富岳」見学) <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
☆ 巻頭言	☆ 紹介	☆ 事業報告											
☆ 報告	- インターンシップ報告	☆ 研究室だより											
☆ 寄稿	- 美崎町境神社	☆ 編集後記											
☆ 10年十色	☆ 近況												

情報・電気・数理データサイエンス系
電気・通信同窓会

電気・通信同窓会活動報告

活動概要

1. 同窓会等開催補助
2. 行事開催

1. 同窓会等開催補助

年度	件数
平成29年度	4件
平成30年度	6件
令和元年度	6件
令和5年度	1件
令和6年度	1件



2. 開催行事

卒業生OB・OG とのキャリア形成のための意見交換会
例年、10月のホームカミング日に合わせて学内で開催

- ・就職活動が本格化する前に学内で開催
- ・電気通信系学科卒業生が来学し、在学生へアドバイス
- ・内容は卒業生による講演と質疑応答
- ・目的
 - 業務内容や研修について学生に具体的な情報を提供
 - 先輩後輩による本音も含む情報交換



実績(2017年以降)

年度	卒業生数	参加者
2018	8名	34名
2019	7名	37名
2020	コロナ禍のために開催せず	
2021		
2022	6名	22名
2023	6名	105名
2024	6名	74名

情報・電気・数理データサイエンス系
数理データサイエンスコース同窓会

数理データサイエンスコース同窓会

役員

- ・会長(コース長):佐々木 徹
- ・幹事:梶原 毅
石岡文生 (工学部同窓会学内幹事, H14卒*)
田村俊輔 (H29卒*)

*環境理工学部 環境数理学科

主な活動

- ・環境数理学科・数理DSコース ホームカミングデイ (2023年10月)
- ・環境数理学科 卒業懇談会 (2024年2月)

活動報告1

ホームカミングデイ



卒業生交流会

就職活動が開始する直前の1月,または,2月に学科と共催で開催、同窓会は茶菓子を提供

- ・電気通信系学科の卒業生が来学し、所属各企業を紹介
- ・2019年から従来行っていた就活キックオフを改編し、丸1日かけて開催
- ・ブースでの各企業の紹介



ブースでの企業紹介



ブースでの企業紹介

	ブース参加企業	参加学生
2021	コロナ禍のために開催せず	
2022	開催せず	
2023	43	約100名
2024	43	64名

活動報告2

卒業懇談会

学科同窓会主催
環境数理学科懇談会のお知らせ

卒業生と在学生の学科懇談会を4年ぶりに開催します。環境数理学科として最後の開催となります。お申し込みは締め切りました。

- 日時: 2月19日(月) 18時30分から (2時間位予定)
- 場所: Jテラスカフェ(講義棟の南側)
- 会費: 2023年度卒業・修業内各年度修業生は学費
2022年度に環境数理学科を卒業した大学生
⇒ 無料(学科同窓会会費)
退学後の学生(環境数理学科の学生のみ参加可)
⇒ 2,500円(申し込み時に押金してください)



化学・生命系 同窓会

化学系生命学科同窓会活動報告

役員

- ・共同代表 西田 良祐(S58卒、化学系)
井口 勉(S46卒、生命系)
- ・報告者 内田 哲也(H4卒、化学系)幹事(学内)
二見 淳一郎(H6卒、生命系)幹事(学内)
西本 俊介(H13卒、環境物質)幹事(学内)
渡邊 貴一(H21卒、化学系)幹事(学内)

活動概要

卒業記念集合写真の撮影と配布を実施
卒業生によるキャリア支援セミナーの学科との共催

2. 卒業記念集合写真の撮影と配布 (H21年度開始)

- ・卒業記念集合写真(学生と職員全員)の撮影と配布

令和5年度卒業生



化学生命系学科の卒業生の一例

令和5年度修了生



自然科学研究科 応用化学専攻の修了生
ヘルスシステム統合科学研究科
バイオ・創薬部門 の修了生
の一例

- ・その他:卒業生連絡先の集計と管理

卒業生によるキャリア支援セミナーへの協力

2024 年度岡山大学ホームカミングデー

系列行事案内

化学・生命系

旧工業化学科・旧合成化学科・旧精密応用化学科・旧物質応用化学科
旧生物応用工学科・旧生体機能応用工学科・旧生物機能工学科
旧環境物質工学科

開催日時: 2024年11月2日(土) 10:00~15:00

開催場所:

卒業生によるキャリア支援セミナー 工学部1号館 大講義室
学生と卒業生との懇談会 工学部1号館A218室
研究室公開 工学部1号館南側、6号館、環境理工棟

- イベントの内容(化学・生命系同窓会との共催) ●

10:00~12:00 卒業生によるキャリア支援セミナー

(工学部1号館3階 大講義室)

企業等の第一線で活躍中の卒業生より、主に化学・生命系3年生、大学院生を対象として、キャリア支援のための講演をしていただきます。

来年度以降、就職活動を控えている学生さんには、将来の人生設計をするうえで参考になると思います。

【ご講演者】

日本電気硝子(株) 長尾 正昭 氏 (2023年度博士修了)
リパ・イ・ス・タルカム・ジャパン(株) 勝瑞 哲也 氏 (2007年度博士修了)
(株)クラレ 宗澤 裕二 氏 (1999年度修士修了)

12:00~13:00 卒業生との懇談会(工学部1号館2階 A218室)

13:00~15:00 研究室公開

※一部研究室はcloseしております。公開している研究室はご自由にご訪問ください。

職場紹介



株式会社 日立製作所

長尾 尚

産業創成工学専攻 博士後期課程修了
(2012年3月卒)

私が勤めている日立製作所のホームページを覗いてみますと、デジタルシステム&サービス、エネルギー、モビリティ、コネクティブインダストリーズといった分類のもと、いくつもの事業が並んでいます。翻って、私個人は、2011年に運用管理プラットフォーム研究部にてストレージシステムの運用管理ソフトウェアの研究に従事し、その後、2012年にストレージ研究部に異動し、ストレージシステムの基盤ソフトウェア（OS）の研究に従事して現在に至ります。事業が違えば職場の雰囲気もガラッと変わります。私のキャリアはストレージシステムの研究に一貫していますので、この目線での職場の様子ということでお楽しみいただければ幸いです。

ここで、ストレージシステムについて簡単に説明いたします。ストレージシステムは、ITサービスの中で最終的なデータの保存を担当する機器であり、ハードディスクやSSDを何百台も搭載し、複数のサーバあるいは複数のITサービスからのデータの読み書きの要求に応じています。この役割のために、利用者視点ではあまり馴染みのないIT機器かもしれませんが、知らず知らずのうちに利用しているかもしれません。

日立製作所では、1992年設立のストレージシステム事業部からメインフレーム向けの大型機とオープン系のシステム向けの小型機を展開していました。大型機は金



VSP One 2U Block Appliance

融機関や大企業などのミッションクリティカル分野に使用されてきました。こうした用途ですから、データの信頼性や読み書きの性能に対するこだわりが強く、たまに当時のソースコードや検討資料を見る機会があると、故障やエラーへのガード機能やリカバリ機能に対する執念（と面白さ）を感じます。ただ、それ以上に当時の資料が残されていることにも驚くのですが。

また、ハードウェアとソフトウェアを複合した研究テーマがあることにも面白さを感じています。一例として、LZMA (Lempel-Ziv-Markov chain-Algorithm) [1] のストレージシステム VSP One 2U Block Appliance への採用についてご紹介いたします。

ITサービスが高度化して生成・収集されるデータ量が増え続けておりまして、より多くのデータを効率よくストレージシステムに格納することの重要性が増しています。LZMAは高いデータ圧縮率が期待できる可逆圧縮アルゴリズムであり、ストレージシステムに適用できれば、データ格納の効率が上がると期待されていました。しかし、LZMAでは逐次演算を必要とする箇所があり、並列処理による高速化が困難でした。そこで、複数の入力ビットに対して可能性のある全通りの演算を並列実行して正しい解を選択する独自の高速化技術を開発し、圧縮伸張処理ハードウェアとして搭載することで、LZMAをストレージシステムに適用することに成功しました。



研究開発グループ横浜サイト

この開発では、ハードウェアの研究者とソフトウェアの研究者（私はこちら側の一人として参画）がそれぞれの専門領域の課題に取り組みつつ、意見交換し合いながら研究を進めていました。意見交換では、ある分野では常識だと思っていた知識が他の分野では新鮮に見えて、課題解決に貢献できたといった美談もありますが、一方の分野の事情から他方の分野の研究や開発に制限をかけるといった苦しい議題もありました。私たちの職場は、研究開発グループ横浜サイトと名付けられた拠点です。普段は在宅勤務で画面越しに資料を見せ合っていました。ときには出社して、至る所に設置されたホワイトボードを使っての議論を続けていました。議論の中で前提が変われば、それに合わせて検討や実験をやり直すこととなります。そのときは、この条件の実験データは役に立つのだろうかと内心では疑ったこともありました。ですが、面白いもので、後日に別の検討に活用されることもありました。別の分野の研究者が近くに居て、議論したからこそ次の検討につながる実験ができたのだと思っています。

私の研究テーマがミッションクリティカル用途の既存製品を対象とするために、ある種の古典的な事例になってしまいましたが、新しい製品に取り組む研究テーマもあります。そちらも一例、ご紹介いたします。先ほど述べたLZMAは可逆圧縮アルゴリズム、つまり元のデータ列に必ず戻せる性質を持っています。ここで、元のデータ列に必ずしも戻せなくても良いという条件であれば、さらに高い圧縮率のアルゴリズムを使用することができます。ところで、ストレージシステムが保存するデータの一つに、産業用動画（例：監視カメラの動画）があります。こうした動画では、車は重要であり高画質を維持したい一方で、ずっと映り続けている背景などは低画質になっても良いケースがあります。そこで、深層学習によって、ユーザが選択したオブジェクトの領域の画質を維持したまま、他の領域には不可逆圧縮アルゴリ

ズムH.26.4[2]を適用して高圧縮するといった研究テーマもあります。

同じストレージシステムに関わるもので、分野の異なる研究テーマをご紹介しました。実は、職場では、これらの研究者は声が届くような近い距離に座っています。残念ながら漏れ聞こえる程度の会話を聞いても、中身は理解できないのですが、刺激にはなっているかなと思っています。

拙い文章ではありますが、色々な分野の研究者が集まって働いていることが私の職場の良い点の一つとっております。その雰囲気が少しでも伝わりましたら幸いです。

[1] <https://www.7-zip.org/sdk.html>

[2] <https://www.itu.int/rec/T-REC-H.264>



カバヤ食品株式会社 研究開発部所属

本庄 真司

自然科学研究科生体機能応用工学専攻修了
(1998年3月卒)

カバヤ食品株式会社は1946年にキャラメル製造で子ども達に美味しいものがたくさん食べられる時代を願い岡山で歩み始めました。カバヤ児童文庫を景品に使用、カバを水槽付きトラックに乗せて周ったり面白い宣伝活動で子ども達に鮮烈な印象を与えました。ジューC、マスカットキャンディ、ビックワンガムは聞いたことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。最近では弾力がクセになるタフグミ、塩分補給に適した塩分チャージタブレット、かわいいチョコビスのさくさくぱんだ、むにゅぶる食感が楽しめるピュアラルグミ、しゃりとした食感が特徴のしゃりinグミ、ゲームにもなった



ほねほねザウルス、45周年を迎えているセボンスター、と共に成長を続けており、お客様から好評をいただいております。オフィスは北海道、東北、東京、名古屋、大阪、広島、九州、工場は岡山と茨城にあり、全国にお菓子を展開しています。

私が属するのが研究開発部でお菓子の品質を創ったり、包装を設計したりしている部署になります。研究開発部のメイン活動は品質創りであり、商品企画のコンセプトを基に食感・風味・色調・形を具現化するための研究、将来的な活用につながる品質や技術を研究することです。私は包装側に属しており、商品企画を工場で具現化する橋渡し役となる業務を進めています。普段はどのような材質なら品質保持ができると同時に工場で機械適正がある状態に仕上げることができるのか、効率的に店頭まで運んでいくために設計をどのようにしていくべきかを行っています。また、必要な表示が商品に記載されているのか、間違った内容が記載されていないのかを確認することも行っています。どの業務も自分たち一人や自部署内で解決することがないため、関連部署との情報共有から始まる協働が欠かせません。関連部署や協力会社等、色々な人とコミュニケーションをとる中で、自分の考えが精査されるだけでなく、業務成果が精査されていくのが商品という形で体感できます。この精査が仕事をしていく上で楽しい所の一つです。

お菓子はただおいしければよいという訳ではなく、プラスチックの魅力が必要であると考えています。なぜならば市場にあるお菓子たちはどれもおいしいため、単純なおいしさだけでは食べ終わった時に記憶に残らないと感じているからです。記憶に残らないと次の購買に繋がらないし、口コミとして広がることも起こりません。だからこそお菓子を作り上げていく中で私は包装面として、どのように使うかを想像し困りごとの規模によっては社会的課題の解決につながることを妄想したり、それに適した商品形態・サイズ・内容量がどうあるべきかを考えを広げたり深めていくのが楽しいところです。

お菓子の袋や箱についてデザインで品質が伝わりやすいのか、大きさは持ちやすく扱いやすいのか、保管のしやすさはどうか、さわり心地はと感じながらお菓子を手にしていただけると、またお菓子への楽しみが広がるかもしれません。

私の職場の雰囲気や伝わり、お菓子についてご関心をお持ちいただけたら幸いです。ありがとうございました。



岡山支部は分野と世代の「つながり」の場としての同窓会を活性化し、若い世代へと受け継ぐことのできる会にしていきたいと願っています。皆様の気軽なご参加とご支援をよろしくお願い申し上げます。

1. 総会・親睦会等

① 岡山支部総会・講演会・懇親会 (2024.6.22)

ピュアリティまきび岡山にて開催され、参加者は、工学部長 難波徳郎先生、講演者 清水一郎先生を含めて21名でした。

○講演会：講師：岡山理科大学工学部長・工学研究科長 清水一郎教授

演題：「バルーン拡張型冠動脈ステントの設計（機械系研究者による医療貢献の一例として）」

講演要旨：冠動脈ステントは、血管の狭くなった部分を内側から押し拡げることによって血流を確保するための医療器具である。ステントは通常、円筒状に配列したセル構造を有しているため、その性能はセルの寸法・形状に強く依存する。本講演では、講演者が機械系研究者の立場から、冠動脈ステント開発プロジェクトに加わって実施した一連の研究について紹介していただきました。

○懇親会：還暦、古希、喜寿、傘寿を迎えられた参加者の方々に、お祝いの品（岡大ブランド酒「おお岡山」）を贈呈し、皆さんでお祝いしました。

② 秋の親睦会 (2024.10.3)

ピュアリティまきび岡山にて開催され、参加者は10名でした。

2. 岡山支部メールマガジンの発行

岡山支部メールマガジン91号(2024.7)、92号(2024.10)、93号(2025.1)を発行しました。会員の気軽な情報交換の場としたいと思っていますので、配信希望の方は支部までメールで連絡下さい。また、寄稿を歓迎しています。

3. 「岡山大学実践コミュニケーション論」への講師派遣

同コミュニケーション論への講師を岡山支部から2名派遣し、大学での教育を支援しています。

HP：https://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/

4. 岡山支部連絡先

支部HP <https://okayama-u.sakura.ne.jp/wp/>

(会員専用欄パスワード okadaieng)

支部メール okayamauniveng@gmail.com

(支部メール、代表幹事)



岡山支部総会 (2024.6.22)



岡山支部総会・懇親会 (2024.6.22)



岡山支部総会・講演会 (2024.6.22)



秋の親睦会 (2024.10.3)

工学部同窓会関西支部活動報告

関西支部 支部長 真鍋 健次 (S46年、電気工学科6期卒)

1.1. 岡山大学Alumni (全学同窓会) 関西支部 第4回総会・懇親会

1) 開催日時・場所

令和6年(2024年)10月27日(日)12:00~14:00
KKRホテル大阪(大阪市中央区馬場町2-24)

2) 参加者

岡山大学から、那須学長、菅副学長をはじめAlumni事務局の方々の参加をいただき、各学部からの参加を含めて約50名の参加者がありました。

那須学長からは、来年度以降は「探求学習」を重視し、自主的な課題設定や情報分析・意見交換により充実した研究・教育の場とする取り組みに注力するとの報告がありました。

次のトピックの報告もありました。

- ①現大学院生の久保駿貴さんが、Forbes JAPANの「世界を変える30歳未満」の30人の一人として選出された。
- ②グローバル ディスカバリー プログラムの田玄結楽(たげんゆら)さんが準ミスワールドの日本代表に選出された。
- ③岡大陸上部が出雲駅伝(大学3大駅伝の一つ)に初めて出場した。

この日は、全員で10周年を確認して、石原先生の乾杯で会をスタートし、いつものように、参加者による近況報告を交えた和やかな会を持つことができました。

- 2) 同窓会の意義・有り方等の意見交換も行うことができました。その中、特筆すべき事項としては、次の通りです。
 - ①同窓会規約に社会貢献が掲げられているが、このような会合に参加すること自体も経済を潤し、また、人と人との接触・交流により新しいアイデア・ビジネス創出に寄与できる可能性がある。
 - ②若い現役の卒業生がもっと多く参加できるような方策を考えるべきである。
 - ③参加者の中に、工学部を卒業し社会人となった後、法学部で学んだ人がいて、現在、自治体に就業して工学・法学の知識があることから重宝されている。
 - ④職種によっては生涯現役で活躍できている人もいる。
 - ⑤専門職の人で、知財経営に関する書籍を出版し、広く学生に読んで貰えたらということで、岡山大学その他の大学に献本できた事例も紹介された。
 - ⑥混沌とした現在の社会において、歴史認識が如何に大切か、今になって世界の歴史を勉強している。それにより自分の立ち位置を知り、行動することができる。

(文責：大森 勝：昭和42年電気工学科卒)

1.2. 工学部同窓会関西支部総会・懇親会

岡山大学Alumni関西支部総会・懇親会に引き続いて、会場を替えて、石原先生を始め、途中帰宅の1名を含めた14名の参加者で総会・懇親会を実施した。

- 1) 工学部同窓会関西支部は、本年が2014年10月25日に石原先生のご厚意で京田辺市の同志社大学工学部の構内施設をお借りして開催した関西支部設立総会で発足以来、丁度10年を迎えました。



工学部同窓会関東支部活動報告

関東支部 支部長 河田 孝志 (S55年、土木工学専攻修了)

岡山大学工学部卒業の皆様、2024年度から関東支部長を務めています河田孝志です。

笹川支部長の後を受け、支部長をお引き受けすることになりました。NTTアノードエナジーの岸本照之さん(1986年電子工学科卒業)が副支部長、堂地博さん(1995年電子工学科修了)幹事を勤めます。宜しくお願いいたします。

関東支部の活動ですが、7月21日に全学同窓会Alumniが小長啓一会長、那須学長はじめ岡山大学の副理事、各学部同窓会会長他120名が出席されました。後半は工学部と環境理工学部の同窓生46名が出席いたしました。堂地幹事から同窓会の目指す姿の提案の後、各自の近況を報告していただき、思わぬ繋がりがあることに驚きもあり、楽しい一時でした。

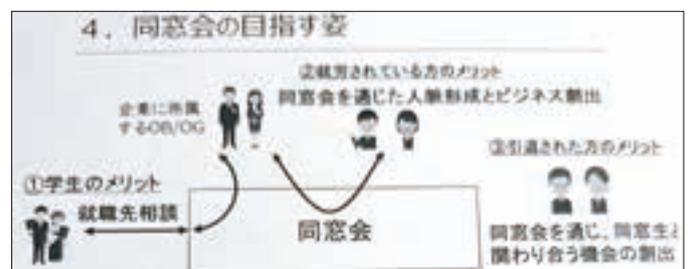
7月5日、10月31日、2025年2月27日には小長会長を囲む岡山大学懇話会に工学部の皆様にも積極的に参加いただきました。小長会長からは田中角栄首相の3年半の秘書官時代を通じて、「リーダーの必要な能力として、「構想力」「決断力」「実行力」「人間力」の講話をお聞かせいただきました。今年95歳になられる小長先生の矍鑠としたお姿を拝見する度、我々も元気をい

ただいています。

また、9月8日には関東支部ゴルフコンペを開催しました。2025年3月16日に開催予定でした昨年度第2回目は雨の為順延となり、6月1日に開催予定です。



小長会長の講話



同窓会の目指す姿

機械工学科で学び・ 教員として過ごした時代を振り返って

大西 孝 (2006年 機械工学コース卒業)



大手建設機械メーカーを辞めて、博士後期課程で大学へ戻ってきた頃、愛用していた研削盤の前で (2010年7月)

1. はじめに

私は2002年4月に機械工学科へ入学し、2006年3月まで機械工学の基礎を学ぶとともに、4年生の頃は、機械加工学研究室に配属され、後の研究対象となる精密加工（研削）の研究に取り組みました。その後、他大学の大学院に進み修士を修得した後、2008年4月から建設機械メーカーで油圧ショベルの各種減速機の設計に携わりました。就職して2年が経った頃、機械加工学研究室で助教が転出するというので、2010年4月に職を辞して岡山大学へ戻り、博士後期課程に在学して博士号を得て、2012年4月から2023年の8月末まで、機械システム系学科の機械工学コースで助教として奉職しました。現在は、滋賀県の大津市にある株式会社ミヤジマという中小企業で、鍛造品の設計および営業の職に就いています。大学時代および教員の時代を振り返り、機械工学科で学び、教えた内容をお伝えします。

2. 学生時代

今は機械システム系学科の機械工学コースになっていますが、私が在学していたころは、入学したときから機械工学科とシステム工学科は別で、両科の学生の交流は全くありませんでした。入試の時点で学科を選ぶ方式は、学ぶ目的がはっきりしているという点では、

良かったのかもしれませんが。

当時は機械工学における「3力」、すなわち材料力学、流体力学、熱力学や基礎的な数学（線形代数や微積）には「演習」の時間が設けられ、こういった重要な科目の講義は週に2回あり、みっちり勉強でき、修士課程で他大学へ行っても、専門科目で困ることはありませんでした。今ではカリキュラムが見直され、こういった科目も、他の科目と同じ講義時間しか割り当てられず、後で教員になってから、習熟が不足しているように感じられました。機械屋の原点として、重要な科目をしっかりと教わることができたことは有益でした。また、当時から自身の考えをプレゼンテーションする科目も複数有り、発表能力が養われた期間であったと感じています。

3. 教員になって

大学へ戻り、機械とシステムが統合した機械システム系学科の教員として後輩の指導に当たることになりました。講義の面では、先に述べた通り、入学時にはコースが決まっていないので、やや学生の気質も変わったように感じましたが、実験実習の講義では、システム工学コースの先生とも交流を図れるなど、良い側面もありました。在職中は、大学の制度や組織がコロコロ変わるのには苦労させられました。特に、前期/後期だけの2学期制か



教員になってからは国際会議で各国へ行き研究成果を発表しました（2016年10月ストックホルムにて）

ら、4学期制への変更では、講義が週に2回になり、講義の開始から期末試験までが約2か月になるため、受け持っていた講義の進行度合いを調整するのに最初は非常に戸惑いました。また、私自身は講義で関係することはないものの、大学院では副専攻というよくわからない科目が導入され、肝心の専門科目がおろそかになっているようにも見えました。こういった改革は、何か変わったことをしなければ文科省に評価されないという風潮の中で行われたものと理解していますが、本当に学生のためになっているのか再検証が必要だと思いますし、個人的には、やはり以前のように、まずはきちんと専門科目に時間をかけて教えられる体制が重要ではないかと考えています。それは社会に出た際に、エンジニアは専門的な知識でまずは勝負しなければならないと痛感しているためです。

研究の面では、学生時代に在籍していた研究室で再び研削の研究に当たることとなりますが、こういった設備があるかはわかっていたので、研究の立ち上げは順調で、研究費についても科学研究費や各種財団の助成を得られたので、お金の面での苦労はありませんでした。自分で研究費を獲得し、それを無駄なく使うというマネーজে

ントは、サラリーマン時代にはなかった経験で、特に中小企業では、こういった金銭感覚も役に立ちます。

順調だった研究に水を差したのが、新型コロナウイルス感染症でした。実験をしてデータを得ることで卒業論文や修士論文を書く研究スタイルは、新型コロナウイルスの影響で2020年から22年にかけて大きな影響を受けました。また、感染症が終息した後も、従前のように研究室にやってきて実験をするという研究の進め方がやや難しくなり、また、上のポストも詰まっていたので、教員を辞して中小企業へ移ることにしました。研究そのものではやりたいこともまだありましたが、いつまでも同じようなテーマにしがみついているのもどうかと思い、他大学でも実験系の研究室はほとんどないため、以前からの知り合いが経営している鍛造業へ転職することにしました。

なお、在職中は工学部同窓会の世話人として、卒業生と在学生を結ぶイベント「機械系エンジニアの歩き方」のお手伝いなどもしました。積極的に活動しましたが、コースの中では同窓会に対する扱いは冷淡で、手伝って当然といった雰囲気が見受けられ、事務方の一部も非協力的でした。今後も同窓会が学部と連携し

て活動を続けるためには、卒業生であるか否かにかかわらず、先生方や事務方の理解が必要であると付記しておきます。

4. 企業から見た大学

中小企業へ転職して2年弱が経ちますが、岡山大学で学んだ機械工学の知識は、実に役立っています。私が勤めている会社は、シャフト部品の素形材の製造に特化しており、丸棒の一部を加熱して鍛造し、フランジを付けるアプセット鍛造を行っています。この素形材は様々な産業分野、具体的には建設機械や鉄道車両、工作機械、水道用バルブ、半導体製造装置など広い分野の製品を構成する部品の基となるものです。鍛造品は、そのまま使われることはほとんどなく、後工程で機械加工（旋削、研削、歯切り等）をされて機械の重要部品として長く使われます。したがって、お客様から多様な図面をお預かりして、見積もりや工法の決定をするのが私の仕事の一つですが、その部品がどのような用途であるか、どのような後工程を経るのかを正しく理解することは、お客様へ最適な鍛造素材を提供するうえで必須のことです。また、営業の際も、多くのお客様とお話をしますが、それぞれの製品の機能を理解しておく、話がスムーズに進み、商談もまとまりやすくなります。

一方で教員の世界は、外から見ると、ある意味で狭い世界だなと感じます。以前は修士の学位があれば教員になれましたが、最近は博士号が無いと教員になれません。そのため、教員になりたい人の多くは、名の通った大学で博士課程まで進み、そのまま教員になるようですが、これは多様化が重要視される現在の状況とは相反するよう感じられます。立派な先生もいらっしゃいますが、大学だけの世界で育ってきた人が、社会に出て活躍できるエンジニアを育てられるのかや疑問です。インパクトファクターなど、学際でしか通用しない数値に過剰にこだわる向きも見られます。実際に私も、教員の任期延長（助教は任期制であり、これも教員になりたがる人を減らしているのではないかと感じます）の審査の際に、ある教授から「君の論文はブアな学術誌（和文誌）にばかり投稿しているね」と言われましたが、今思えば、広く産業界に自身の成果

を知ってほしいから和文誌に投稿していた（実際は英文誌にも、ある程度投稿しています）ことで評価が低くなるなど、妙な風潮だと感じられてなりません。

今、大学で勉学に励んでおられる学生さんには、ぜひ、まずは専門科目をよく勉強してほしいと思っています。人手不足が叫ばれる中、専門科目のスキルを持っていれば、どこに行ってもエンジニアとして通用します。もちろん就職活動も大切ですが、今しかできない勉強や研究に、熱意をもってあたってほしいですし、それが成長につながるはず。また、せっかく縁があって大学に来ているのですから、専門科目の勉強だけでなく、広く教養を身に付けたり、かけがえのない友人を持ったり、スポーツや趣味を見つけることも良いでしょう。

昨年からは、私の勤務先では地元の工業高校の長期実習を受け入れており、私が実習テーマの作成と生徒さんの対応をしています。この取り組みでは、4月から11月まで、夏休みを除く週に1日、朝から夕方まで生徒さんと会社の中で課題となっていることを解決する手法を考え、実際に改善する手法を考案し、最終的にはその成果を検証しましたが、新しいことに対して貪欲に取り組む生徒さんを見てみると、こういった環境でも、教えるということは楽しいものだと実感しています。私の母校である機械工学コースでも、学ぶ側、教える側、両者が楽しく充実したものであってほしいと願っています。



現在の職場でも工業高校の生徒さんの長期インターンの受け入れ担当をしており、新たな装置の開発等も行っています（2024年9月）

令和7年春の叙勲 瑞宝中綬章を受章して 則次 俊郎 (1972年 生産機械工学科卒)

令和7年春の叙勲で元津山工業高等専門学校長として瑞宝中綬章を受章しました。身に余る章をいただきありがとうございますと感謝しています。

1972年に岡山大学工学部を卒業、1974年に同大学院を修了し、同年津山工業高等専門学校（津山高専）に採用され、1986年に岡山大学工学部に配置換えとなりました。岡山大学では地域共同研究センター長や大学院自然科学研究科長として産学官連携の推進や大学院の改組に携わらせていただきました。2013年から2018年まで津山高専校長を務めた後、2018年から美作大学に勤務し、2025年3月に同大学を退職し現在に至ります。

叙勲は津山高専から申請していただきました。申請に当たり同校の関係の皆様が大変お世話になりました。厚くお礼申し上げます。瑞宝中綬章の対象は長年にわたり公務等へ従事した者ということで、上記3つの職場における長年の務めを評価していただいたものと思います。

岡山大学では、当時の研究室所属の高岩昌弘准教授（現在 徳島大学教授）、佐々木大輔助教（現在 香川大学教授）、田原吉則技術専門職員（故人）および研究室の学生さんと一緒に機械システムの制御や空気圧ゴム人工筋を用いた身体装着型のパワーアシスト装置を開発しました。これらの装置を岡山市内の社会福祉施設や岡山大学病院へ持ち込み、下肢麻痺の人の立ち上がり支援や歩行訓練（図1参照）などについて装置の有用性を検証しました。また、指の動きや握力を支援できる図2のようなパワーアシストグローブを開発して岡山市内の企業により商品化していただきました。

津山高専校長在任中には、実践的な異分野融合教育の推進を目的として、専門分野別に独立していた4学科を総合理工学科の1学科に改組統合しました。図3は国立高等専門学校機構へ提出した改組案です。2016年から津山高専は本案に基づいて再編・統合され現在に至っています。改組では校内の多くの先生方や事務職員の皆様にも多大な協力をいただきました。

美作大学では地域生活科学研究所長として学内教員の

研究活動や地域連携の推進に従事しました。同時に福祉介護ロボットの研究を再開しました。図4はその一例です。バルーン状のアクチュエータ（エアーパード）を空気圧で膨張させて移乗作業などにおける身体の持ち上げをアシストすることにより介護者や被介護者の労力を軽減することができます。介護施設や在宅などでの簡易な介護支援機器としての普及を願っています。また地域の関係の皆様と介護ロボット研究会を設置し、実用的な介護支援機器の開発と普及を目的とした議論を進めています。

現在、岡山工学振興会の代表理事を務めさせていただき、しばしば岡山大学を訪れる機会があります。岡山大学との縁が継続できるのは工学部の同窓生として嬉しいことです。

この度の瑞宝中綬章の受章を励みとして、研究活動や地域の科学技術振興の仕事を続けていきたいと考えています。

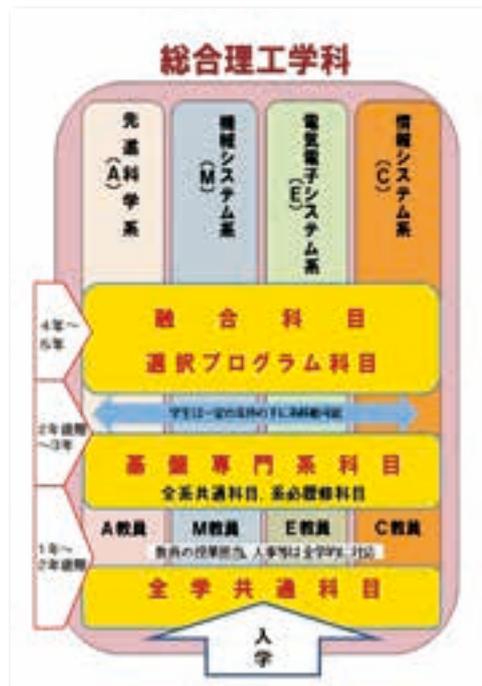


図3 津山高専の改組統合案（2016年）



図1 歩行訓練への実証試験



図2 パワーアシストグローブ



図4 アクティブエアーパード

環境理工学部同窓会との統合

統合の経緯

2021年4月に工学部と環境理工学部が統合され、新しい工学部として出発することになりました。それに対応して、2020年7月頃から、工学部同窓会と環境理工学部同窓会の委員からなる準備委員会を発足させ、情報交換と今後の同窓会について検討を行いました。その結果、2021年4月からの新生は全て工学部同窓会に加入することを決定しました。しかし、2020年までの環境理工学部入学生の工学部同窓会への加入については、環境理工学部の4つの各学科同窓会の総意が得られませんでした。そこで、2021年4月の学部統合時点では、工学部同窓会報33号(2021年8月発行)で報告した通りの体制で、新しい工学部同窓会が発足しました。

その後、旧環境理工学部同窓会から工学部同窓会への加入の要望があり、2021年4月に新しい工学部に入学した学生が2025年3月に卒業することに合わせて、2024年11月より旧環境理工学部各学科同窓会の工学部同窓会加入についての意向調査を行いました。意向調査の結果を踏まえて、2025年2月3日(月)に工学部役員会を開催し、下

記の旧環境理工学部各学科同窓会の意向を承認しました。

環会(環境デザイン)	加入
拓水会(環境管理)	環境理工学部卒業生:加入
環境数理	加入
環境物質	加入

工学部同窓会の役員会の承認を踏まえて、2025年3月27日(木)に旧環境理工学部各学科同窓会からの幹事と工学部同窓会役員、事務局とで集まり、役員会の承認内容を伝えるとともに、加入に向けての事務的な手続きについて話し合いました。話し合いの内容は、加入するにあたり同窓会会則の改正と加入する同窓生の会員名簿の取り扱いについてです。同窓会会則の改正については次節で説明します。会員名簿の管理は、すべて工学部同窓会で管理することになりました。

以上の話し合いでの決定事項は、2025年6月6日(金)に開催される工学部同窓会幹事会で議論、承認後、正式に環境理工学部各学科同窓会の工学部同窓会への統合が決定される予定です。

工学部同窓会会則の改正

旧環境理工学部各学科同窓会の工学部同窓会への加入に当たり、以下の通り会則を改正します。

現 行

(構成)

第2条 本会は各系(コース)同窓会を基幹としたものである。

(会員)

第4条 本会は次の会員で組織する。

- (1) 岡山大学工学部卒業生、専攻科修了生並びに工学部と組織的に関係する大学院の工学系修了生
- (2) 岡山大学工学部現旧教員及び教室系職員
- (3) 岡山大学工学部並びに工学部と組織的に関係する大学院工学系在学学生
- (4) 各系(コース)同窓会の推薦により幹事会で承認された者

改正案

(構成)

第2条 本会は各系(コース)同窓会並びに環境数理学科同窓会、環会、拓水会(農学部卒業生の除く)、環境物質工学科同窓会を基幹とした連合体である。

(会員)

第4条 本会は次の会員で組織する。

- (1) 岡山大学工学部卒業生、専攻科修了生並びに工学部と組織的に関係する大学院の工学系修了生
- (2) 岡山大学工学部現旧教員及び教室系職員
- (3) 岡山大学工学部並びに工学部と組織的に関係する大学院工学系在学学生
- (4) 環境数理学科同窓会、環会、拓水会(農学部卒業生の除く)及び環境物質工学科同窓会が定めた会則等で規定する会員
- (5) 各系(コース)同窓会の推薦により幹事会で承認された者

寄付者一覧

工学部同窓会会員の皆様からご寄付いただきました。ご協力ありがとうございました。なお、匿名希望の方につきましては、御名前を載せておりません。

機械工学科

- 昭和39 近藤伊知朗 高桑敏 丹下孝 中井川紀一 山木基 荒岸睦 沼田昭 御手洗昭 藤手洗昭 近藤正 佐藤修 森邊照 石井泰 芝瀬泰 万代知 清水秀 水渕克 戸川正 福間好 藤宮崎 木村健 近藤藤 藤山裕 山宮俊 二藤武 三藤三 赤沢健 石原泰 若梅秀 本梨留 芝川重 杉井睦 小林清 渡会多 加納幸 岸本幸 窪田宏 藤原章 山下哲 坂竹利 岡城和 岡谷吉 伊藤一郎 井野聡 小野正 中村雄 有木通 駒井隆 玉井克 川上剛 佐藤伸 立石康 村上敏 植木嘉 塚岡太 板垣信 藤田茂 宇田宏 鈴江秀 大野秀 田方篤 松垣孝 美濃島正 宮本寛 池田真 古崎昭 中塚裕 延原寛 松下浩 壺内三 岡崎史 藤原清 田内道 飛田芳 前田武 三分一永

- 昭和23 家村德 神谷(林)公 和田恵太
- 生産機械工学科 昭和43 三隅(中村)毅 日笠勝 岡岡弘 谷村和 守屋純 逸見正 枝廣憲 今城良 岡崎修 田湖(川本)敏 小坂澄 小堂洋 堂田周 永井誠 成田明 西尾常 則次俊 松井正 濱元隆 山本茂 片山英 金尾謙 稲葉二 花房慎 佐藤彦 濱野茂 南平博 三嶋悟 中島尚 江原道 廣田千 遊塚郁 岡崎孝 矢吹厚 西原季 原城文 本宮武 間瀬丈 今井健 遠藤伸 岡崎好 武田郁 武重正 久恒俊
- 平成3 3
- 平成2 2
- 平成1 1
- 昭和58 田裕 藤原貴 小西大 小西浩 久業竜 高原泰 西中 嶋本威 山本泰 猪原章
- システム工学科 平成17 小杉雅 守屋智 中井央 船本史 滝澤賢 中山喜 和泉卓 藤本華 田村玄
- 機械システム系学科 令和3 竹内雄 令和4 安藤涼
- 大学院 機械工学専攻 平成5 中野幸
- 大学院 博前 機械システム工学専攻 平成30 高田修
- 大学院 博 生産開発科学専攻 平成3 下村孝

- 大学院 博後 エネルギー転換科学専攻 平成18 中田達
- 大学院 博後 ヘルスシステム統合科学専攻 令和4 BUOMER HANI MAHMOUD MOHAMMED
- 電気工学科 昭和41 赤松昌 兼和 馬場宏 入江啓 秋山進 伊賀淳 板谷康 菊田充 富高徳 松坂太 阿部眞 阿野敬 板野純 井上浩 井上実 岡田俊 每原義 寺尾幸 横田吉 四谷守 石井彦 上島和 中川淳 矢吹清 岡崎重 東本(福井)将 光岡良 松井孝 石田英 矢部明 松本繁 落合弘 形部正 勝山佳 甲野順 高林博 田中慎 寺尾章 鳥越浩 二村啓 前田行 安信研 吉田健 大阪英 清水秀 豊岡寛 井上宮 二宮淳 日那暢 藤居正 安橋勝 大野朋 倉橋隆 近藤邦 丹治浩 大石正 波多野和 柳原茂 植野泰 下司貴 一松栄
- 電子工学科 昭和47 浅野光 中川健 小郷貞 常広隆 松林聖 山下隆 山田重 神宮功 松宮雅 黒岩(奥村)剛 栗山俊 野上耕 藤原滿 井上昭

- 昭和56 川村久 花房浩 森田展 井上修 信定俊
- 57 久男二 浩展司 俊英
- 58 58
- 電気電子工学科 平成3 田井政 小見山典 岡田武 中村聡 北岡和 野崎昌 荒巻克 川崎敦 塩飽修 藤井丹 前野修 滝澤良 田原正
- 通信ネットワーク工学科 平成16 白石成 藤原康 藤原精 久保輝 石田真 千晶
- 電気通信系学科 平成30 松岡良 令和6 齊藤季 太一
- 大学院 電子工学専攻 昭和50 松原和宣
- 大学院 博後 産業創成工学専攻 令和6 THET MON KHIN
- 情報系学科 令和5 片倉尉
- 情報工学科 平成3 平山浩 藤塚(八木)謙 植月浩 江口哲 新井政 森裕 軒原正 西山和 重岡健 吉田勝 吉田真
- 工業化学科 昭和39 石井武 菊地明 木村亮 山本浩 山本平 浅沼美 石川達 岡原正 河内俊 小橋利 船越仁 安井常 歳森茂 太田(宇津見) 遠藤志 紀平友 赤井浩 白石良 田村輝 野村和 宮岡聖 尾坂明 井口(岡本) 小田喜 田島勝 中村一 八木和 江川治 日下部正

- 昭和47 杉崎四 橋森行 谷浦裕 大松治 稲村義 小倉勉 貞包章 長野秀 水田雄 逢澤薫 上田吉 柴田告 渡部一 小林昭 小徳丸裕 青山和 山崎和 篠原義 滝口朗 寺門洋 馬場正 糸島稔 日笠稔 栗山(藤原)宏 森智三 越智文 藤林昭 津崎昌 福田善 上田幸 川端浩 沼田時 沼田裕
- 平成4 田島良 小池一 中潤明 和田中誠 田中宏 岩田(則武)知 原口敦 三浦貴 生越(山西)正 岩谷昌 古本俊 桐山孝 関谷哲 泉優 築瀬(大岡)好 加代子
- 物質応用化学科 平成19 池田徹 宮本莊 内川裕 天岡隆 神本奈 赤木津 智也
- 生物応用工学科 平成3 亀高邦 本間陽 本弟丸 宮崎俊 山本和 田中貴 三木惠 三博
- 生体機能応用工学科 平成7 中山清 村上貴 横田榮 作
- 生物機能工学科 平成12 直原寛 古(田尻)さ 吉岡朋 谷原潤 板谷恒 勝瑞哲 矢野秀 岩本奈 正岡伸 孝
- 化学生命系学科 平成29 櫻井友 令和4 坂下希 吉崎泰 田村俊 梨野樹 高岡純 勝一郎
- 大学院 工業化学・合成化学専攻 昭和48 野上潤
- 大学院 精密応用化学専攻 平成6 徐光
- 大学院 博前 物質生命工学専攻 平成25 西田知
- 旧教職員 大岸真 岡谷琢 谷本善 田中善 阪藤清 齋藤井 野上保 井上昭 宮崎茂 大森齊 神原東 中西一
- 令和6年度分 寄付者536名 (掲載:459名、匿名77名)
- 精密応用化学科 平成4 植田泰 重岡史 俊昭

同窓会会計報告（令和6年度）

一般会計

収支計算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I. 収入の部				
1. 入会金収入 会費収入	4,930,000	4,700,000	230,000	470名 @10,000×470名
2. 寄付金収入 寄付金収入	1,063,000	1,044,368	18,632	572名 1,181口
3. 雑収入 受取利息	100	2,608	△ 2,508	普通預金、郵便貯金
当期収入合計(A)	5,993,100	5,746,976	246,124	
前期繰越収支差額	5,919,911	5,919,911	0	
収入合計(B)	11,913,011	11,666,887	246,124	
II. 支出の部				
1. 事業費	4,113,000	4,051,283	61,717	
通信運搬費	1,211,000	1,203,705	7,295	会報郵送料 他
会議費	100,000	78,473	21,527	ホームカミングデイ懇親会
学部教育支援経費	0	0	0	
旅費交通費	130,000	0	130,000	
印刷製本費	2,176,000	2,285,027	△ 109,027	会報 他
消耗品費	10,000	6,928	3,072	コピー用紙 他
助成金支出	450,000	450,000	0	関東・関西・岡山支部
同窓会活性化経費	6,000	7,150	△ 1,150	レンタルサーバ
雑費	30,000	20,000	10,000	一斉メール 他
2. 学科事業費	1,489,000	1,494,900	△ 5,900	
学科配分会費	1,389,000	1,395,000	△ 6,000	465名 @3,000円
ホームカミングデイ補助	100,000	99,900	100	
3. 管理費	566,000	566,000	0	
業務委託費	500,000	500,000	0	(公財)岡山工学振興会
〃	66,000	66,000	0	同窓会員データメンテナンス 小野高速印刷(株)
当期支出合計(C)	6,168,000	6,112,183	55,817	
当期収支差額(A)-(C)	△ 174,900	△ 365,207	190,307	
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,745,011	5,554,704	190,307	

基金特別会計

収支計算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

(単位：円)

科 目	決 算 額	備 考
I. 収入の部		
1. 寄付金収入 寄付金収入	0	
2. 雑収入 受取利息	0	
当期収入合計(A)	0	
前期繰越収支差額	2,059,655	
収入合計(B)	2,059,655	
II. 支出の部		
1. 事業費	0	
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	0	
次期繰越収支差額(B)-(C)	2,059,655	

2025年度 岡山大学工学部同窓会報告会・懇親会の開催について

本報告会では、昨年からの同窓会の活動を報告します。また、報告会終了後には、懇親会を予定していますので奮ってのご参加をお待ちしています。

工学部同窓会報告会

日 時：2025年11月1日（土） 15：30 - 16：30（受付開始 15：00）
場 所：岡山大学共育共創コモンズ講義室（2階）
議 題：活動報告他

工学部同窓会懇親会（報告会后、17：00 - 18：30；受付開始 16：30）

場 所：岡山大学南福利施設ピーチユニオン4階
懇親会費：2,000円（含アルコール、会費以上の内容です。工学部同窓会総会受付にてお支払いください。）

事前参加申し込み：メール（工学部同窓会事務局、ofst@okayama-u.ac.jp）にて、氏名、学科、卒業年、連絡先等を、10月17日（金）までにご連絡ください。詳細は工学部同窓会HPでご確認ください。

※ ホームカミングデイ開催について

2025年のホームカミングデイは、大学祭開催期間中の11月1日（土）に開催されます。
詳細は岡山大学HPと工学部HPでご確認ください。

同窓会事務局より

同窓会報、ホームページへの寄稿のお願い

会員の皆様からの寄稿をお待ちしています。掲載記事の内容、書式等は、既報の会報、HPを参考にしてください。なお、内容により事務局・監事で採否の判断、一部変更等をお願いすることがありますのでご了承ください。

支部活動の助成について

工学部同窓会の支部が、総会、懇親会等を行う場合に、通信費（小野高速印刷株を利用した実費）及び懇親会等の会合に要する経費（150,000円/年）を助成します。詳細は事前に事務局にご相談ください。

住所変更等の連絡のお願い

会報は全員に登録された住所に配布しています。住所変更がありましたら、メールまたはハガキ等により、お名前、住所、卒業学科（専攻）、卒業年度、電話番号、メールアドレス等（差し支えない範囲で）事務局までご連絡ください。会報以外の情報もメールにて提供します。

寄付のお願い

同窓会は、皆様からの格別のお力添えに支えられて今日まで活動を行ってまいりました。また、事業継続と今後一層活発な同窓会にするためには、皆様からのご寄付に頼らざるを得ません。ご寄付は、一口千円からですが、ご厚意に応じて何口でも結構です。よろしくお願い申し上げます。

* 同封の振込用紙をご利用ください。通信欄にはお名前、住所、卒業学科（専攻）、卒業年度、電話番号、メールアドレス（差し支えない範囲で）、会報への氏名掲載の可否等をご記入ください。

岡山大学工学部同窓会報第37号をお届けします。本号は、退職された先生方のご挨拶、各系の近況報告、OBの方々の職場紹介や各支部の報告などに加え、叙勲瑞宝中綬章を受章の紹介や興味深いエッセイなど、充実した内容となりました。ご多忙の中ご寄稿いただきました卒業生の皆様や、本学関係者の方々に、厚く御礼申し上げます。

工学部と環境理工学部が再編統合され、今年で5年目を迎えました。私自身、新生工学部の誕生と共に岡山大学工学部に着任しましたので、今年で教員生活5年目となります。着任当初は、ただでさえ右も左もわからないところにコロナ禍が重なり、いくらか苦勞することもありました。ここ一、二年は大学も活気を取り戻し、諸先輩方と直接顔を合わせてご

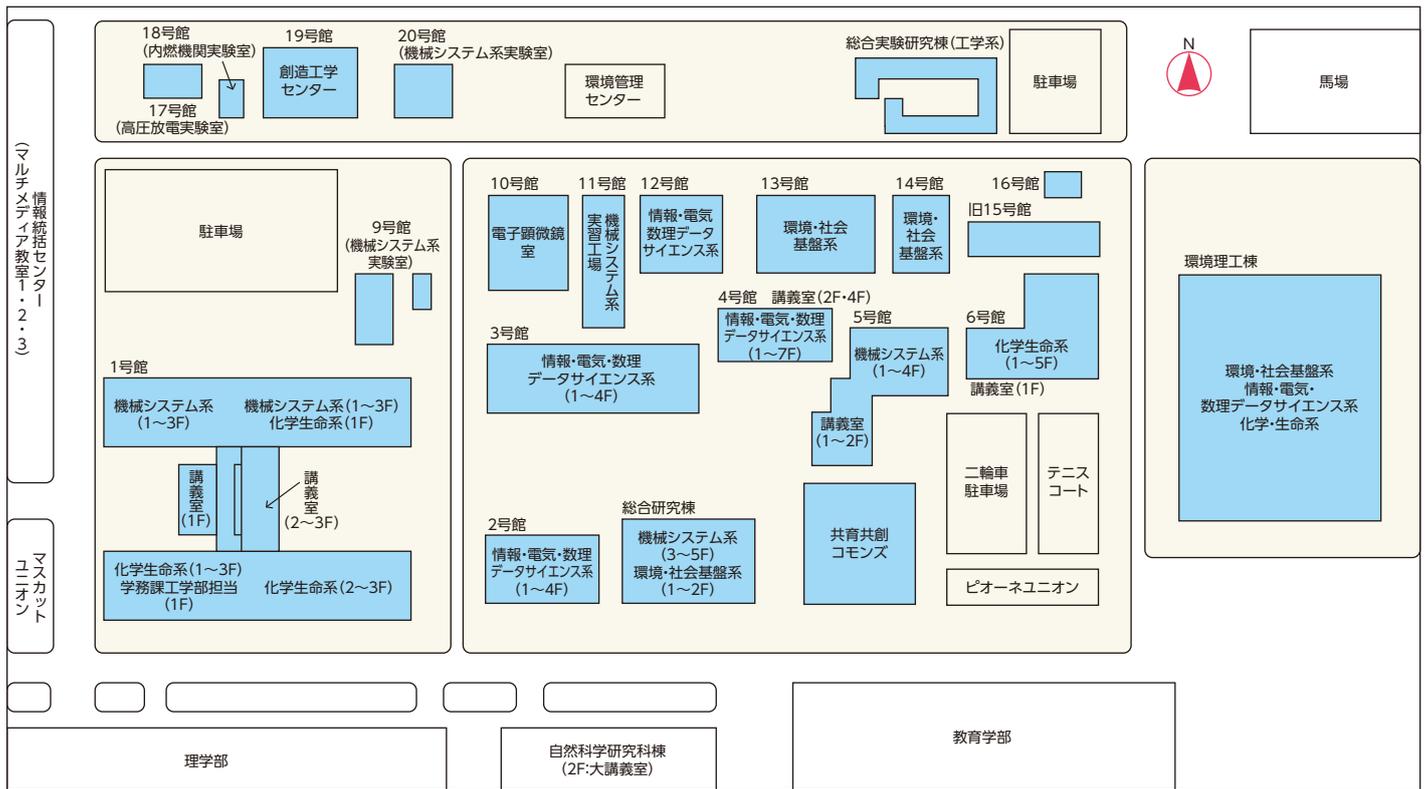
指導ご助言をいただける機会も増え、なんとか日々の業務や研究活動をこなしています。同窓会活動もその好例かと存じますが、人と人とのコミュニケーション、縦の繋がりや横の繋がりを持つ力というものを、改めて認識することができました。

昨年度より、新生工学部の卒業生も工学部同窓会の一員として加わり始めています。大学時代の友人との親睦、先輩や後輩との交流のみならず、新しいネットワークの形成の場としても、同窓会をうまく活用してくれることを願っています。

会員の皆様におかれましては、引き続き、同窓会へのご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

2025年度 学内代表幹事 勝原 光希

工学部建物等配置図



編集・発行：岡山大学工学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学新技術研究センター内

TEL・FAX (086) 255-8311

メールアドレス：ofst@okayama-u.ac.jp

ホームページ：https://oka-u-eng-alum.sakura.ne.jp/

印刷所：小野高速印刷(株)

〒670-0933 姫路市平野町62 TEL (079) 281-8837